



マブーフ氏殺害事件について

— 戦史部第1戦史研究室教官 小谷 賢

第7号 2010年3月1日

NIDSコメンタリー

先月からドバイのホテルの一室でイスラム原理主義組織ハマス幹部、マブムード・アル＝マブーフ氏が殺害されるというニュースが世界中のマスコミを賑わせている。しかしここ10年に限定してもハマスやヒズボラ幹部の暗殺自体は毎年のように生じており、事件自体は珍しいものではない。今回のニュースが世間を騒がせている理由は、犯行グループと見られる一団が空港やホテルの防犯カメラに映っており、その画像が公開されたこと、またグループが英独仏等の偽造、もしくは違法に入手されたパスポートを使用していたことにある。今回事件に関与した11人の内の過半数が英国のパスポートを使用しており、英国政府は事態を重く受け止めている。そして今回の暗殺には、イスラエルの情報機関であるモサドの関与した可能性が濃厚であると指摘されており、近年には珍しく日本のメディアもモサドについて報道している。

これらの報道に対してイスラエル政府はノーコメントの姿勢を貫いているが、2月17日付の『ワシントン・ポスト』誌では元モサド職員、ラフィ・エイタン氏が犯行の杜撰さを指摘し、「今回の事件は他の組織がモサドに罪を被せる狙いではないか」と発言してモサドの関与を否定した。そこで本稿ではモサド関与の可能性を検討してみたい。

モサドはイスラエル首相に直結する情報機関であり、その任務は対外情報を収集し、イスラエル国家の安全保障を確立すること、またイスラエルの他のインテリジェンス組織を束ねていくことにある。現在、モサドには組織の行動を規定する根拠法が存在しないため、法的には暗殺も含む非合法活動が可能とされており、それを実行するための「キドン(バヨネット)」という実行部隊を有していると言われている。この部隊が関わった工作で最も有名なものが、1972年のミュンヘン・オリンピック・テロを起こしたテロ集団「黒い九月」に対する報復、「神の怒り」作戦である。同作戦は1972年から1979年にかけて実行され、その過程では「黒い九月」のメンバー11人、さらには巻き添えも含めると20人近くが犠牲になったと言われている。

エイタン氏は今回の事件がモサドの仕業にしては杜撰であると指摘しているが、モサドの歴史を紐解けば、洗練された数々の工作の裏には杜撰な事例も散見される。例えば1997年、ヨルダンにおいてモサドのスタッフがハマス指導者、ハリド・メシャル氏を殺害するため、往來で神経ガスのスプレーを氏に噴きかけようとしたがこれに失敗し、スタッフが拘束されている。また2003年にはニュージーランドで偽造パスポートを所持していたモサド職員が逮捕され、実刑判決を受けた。

これらの失態からすれば、今回の暗殺劇はそれほど杜撰なものではない。まずマブーフ氏は立場上、警戒心が高く、報道によれば今回宿泊していたホテルは窓の開かない部屋であった。そのため暗殺犯が部屋に侵入するためには、ロックされた扉を開けなければならない。元モサド職員、ビクター・オストロフスキー氏の回想録によると、モサドは多くのホテルの合鍵を有しており、合鍵がなくとも錠を開ける技術に秀でているという。さらに同氏は、モサドが世界各国の偽造パスポートを製作しており、また世界中からイスラエルに移住してくるユダヤ人から各国のパスポートも入手できている。今回の殺人劇を概観すると、11人の違法パスポートを有したチームがドバイのホテルに宿泊しているマブーフ氏を部屋で殺害し、その後迅速に海外へ逃亡した、というものである。これ程の組織的な暗殺劇を演出できる組織は、世界広しといえどもモサド、ロシアのFSB、米国のCIA、英国のMI6あたりであろう。モサド以外の組織には、マブーフ氏を暗殺する理由も、危険を冒してモサドに罪を擦り付ける理由も見当たらない。状況証拠から察すれば、モサド関与の可能性が一番高いと言える。

今回の事件に際してはUAE当局に加え、国際刑事警察機構(ICPO)や、英国の違法パスポートの件で英国重大組織犯罪対策機構(SOCA)などが捜査を進めているという。真相は未だ闇の中であるが、もし今回の件にモサドが関与していたとするなら、イスラエル政府は各国政府に対して何らかの説明を求められるであろう。

プロフィール

profile



戦史部第1戦史研究室

教官

小谷 賢

専門分野：イギリス政治外交史、日英関係史、インテリジェンス(情報)研究

本欄における見解は防衛研究所を代表するものではありません。

NIDSコメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。

ただし記事の無断引用はお断りします。

防衛研究所企画室

直 通：03-3713-5912

代 表：03-5721-7005（内線 6584, 6258）

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>